

「自ら学ぶ力をつける学習指導に関する研究」

～主体的・対話的で深い学びによる授業改善と「考え、議論する」道徳の授業づくり～

I 主題設定の理由

今回の学習指導要領の改訂では、社会において自立的に生きるために必要な「生きる力」を育むために身につけさせる資質・能力として①生きて働く「知識・技能」の習得、②未知の状況にも対応できる「思考力、判断力、表現力等」の育成、③学びを人生に生かそうとする「学びに向かう力・人間性」の涵養の三つの柱が掲げられている。単元の題材など内容や時間のまとまりを見通しながら「何を学ぶのか（教科の目標）」にとどまることなく「何ができるようになるか（資質・能力）を明確に見据えたなかで「どのように学ぶのか（学習過程の改善。主体的・対話的で深い学び）」の授業改善、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」をはたらかせる学びの過程の重視を求めている。

平成29年度から上記の①～③の資質・能力を身に付けさせるために「どのように学ぶか」の更なる学びの質の向上に向けた研究・取組を行ってきた。研究主題「自ら学ぶ力をつける学習指導に関する研究」～主体的・対話的で深い学びによる授業改善～として3年間の継続研究に取り組んだ。そのなかで研究の3つの柱1「思考・判断・表現力を高める取組（山北スタイルづくり）」、2「基礎学力定着の取組」、3「教材教具の開発・工夫とICT活用」を通して主題にせまるべく研究を進めてきた。これまでに、話型の研究（話し合いの手順、発表のルール確立）、課題提示の工夫（考えるときの視点や方向性のもとになる「問い」づくり）の取組を進めてきた。今年度は、授業過程でのまとめと振り返りでの工夫に取り組んだ。

そして、本校は、本年度から令和3年度までの3年間、山梨県道徳教育推進授業の指定を受け「特別の教科 道徳」の研究の機会をいただいた。副主題を～主体的・対話的で深い学びによる授業改善と「考え、議論する」道徳の授業づくりとした。今年度は特に、「考え、議論する」道徳の授業づくりとした。今年度は、「考え、議論する」道徳の授業づくりを目指して、「発問の工夫」、及び「評価文（通知表への記述）」の研究へ取組を進めた。

II 研究の具体的取組内容と方法

1 思考・判断・表現力を高める取組→「山北スタイル」の確立

<p>【教師】①課題提示の工夫</p> <p>↓</p> <p>②自力解決支援</p> <p>↓</p> <p>③相互解決・展開</p> <p>↓</p> <p>④評価・まとめ</p>	<p>・生活等と結びつく課題</p> <p>・意欲につながる課題</p> <p>・生徒自ら思考・判断・表現するための支援</p> <p>・ペア、グループ解決、全体解決</p> <p>・評価(生徒・教師)</p> <p>・まとめ(定着と繋がり)</p>	<p>【生徒】①課題の把握 (的確)</p> <p>↓</p> <p>②自力解決(記述ノート等)</p> <p>↓</p> <p>③相互解決(学び合い)</p> <p>↓ ※協働的学習</p> <p>④まとめ (学習整理)</p> <p>※振り返り</p>
--	---	--

2 基礎学力定着の取組

- ①自主学習ノートの作成（家庭学習ノート）の実施
- ②朝学習 → 読書活動の定着，「書くこと」の定着「作文」の実施
- ③山北サポートタイム，基礎基本の定着，年間9回実施

3 教材教具の開発・工夫とICTの活用

- ・主体的・対話的で深い学びに繋がる教材教具（含：ICT）の研究

4 「考え，議論する」道徳の授業づくり（山梨県道徳教育推進校令和元年度～3年度）

- ①発問の工夫：生徒が多面的・多角的に考える
- ②通知表への記述：視点を明確にした評価文の作成

Ⅲ 成果と課題

1 成果

- (1)「山北スタイル」を，さらに各教科，各個人で工夫し授業に取り入れることができた。生徒も共通したスタイルに慣れ，グループの話し合いも有意義に行い，個人の課題解決に役立てることができた。振り返りシートなどを活用して，まとめと振り返りでの工夫をすることができた。
- (2)「自主学習ノート」「朝学習」「山北サポートタイム」の継続した取り組みにより基礎学力が向上している。また，帰りの会で家庭学習の準備として自主学習ノートに5分間取り組むことが定着してきている。ピックアップ問題を活用して山北サポートタイムで補充的学習に取り組むことができた。
- (3)大型モニターが11台学校に入り，授業改善に向けて，多くの教科でモニターを活用したり，生徒の理解を支援したりするための教具を工夫することができた。
- (4)道徳科の研究授業，評価文（通知表への記述）の作成に教職員全員で取り組むことができた。道徳科の授業の確実な実施と授業参観で全校一斉に道徳科の授業を保護者へ公開することができた。

2 課題

授業においては、「山北スタイル」で一定の成果を得たが，今後さらに振り返りの工夫，また話し合いの手順や方法の確立をしていきたい。また，基礎学力定着についてもより有効な手立てを考え，発展させていきたい。

「考え，議論する」道徳の授業づくりでは，補助発問の中の，問い返しや切り返しについて研究を深めたい。また，話し合い活動で，個人が出した意見を一つにまとめる方法と，すべて出た意見を発表する方法があり配慮が必要である。そして埋もれてしまう意見を有効活用するためには，どのような問い返しが無効なのかを実践のなかで検証していきたい。通知表への記述については視点をより明確にした評価文の作成に取り組んでいきたい。

（研究主任 萩原 修）